

「縄文とつとつ」

約1万年は続いたと推定される縄文時代、その縄文人達が手掛けた造形物やその破片の一つひとつに致るまで、見る人達に咄咄と語りかけてきて、自己主張を怠らず、現代人を飽きさせるところかのめり込ませてしまうのです。

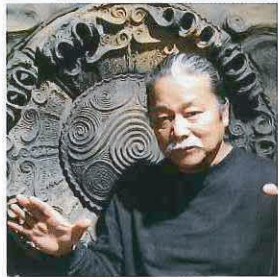
土器類や土偶達は粘土を材料としてできており、外見はおろか内にも底知れぬパワーと謎を秘めていて、私達現代人をも虜にってしまう引力の様なものを今日も発信し続けていて、決して止むことはないのです。

我が新潟県の信濃川流いにも、縄文集落が点在していてその中の幾つかは津南町エリアにあり、今から約5千年前に造られていた土器の代表格の火焰土器(火焰型土器)があちこちの集落から出土し、今に甦って威風を放っております。

この土器群は口縁部の大仰な突起や、水(川)の流れの様なうねりや、S字あるいはハート形などのデザインの全てが変幻自在であるのです。

また、土偶やそれと思われる造形物も不思議なカタチのものが多く、表情も様々で感性の豊かさを露呈していて、半開きの口元や食い入る様な眼指、まるで呼吸をしているかの如しの鼻の穴など、どこを切り取っても極めてメッセージ性の強さが顕れていて摩訶不思議であり、その情熱を容赦なく浴びせてくるのです。

今回、津南町のなじょもん館内外におきまして企画展の6名とワークショップの2名の講師も加わり、縄文時代の出土物と現代人のアートとのコラボレーションを開催する運びとなりました。県内から参加の作者は地元津南の素材(石、木、草など)にこだわった作品造りを試みてみました。是非縄文人と現代人の対話の妙を篇と心ゆくまでとつとつと鑑賞頂ければ幸いです。



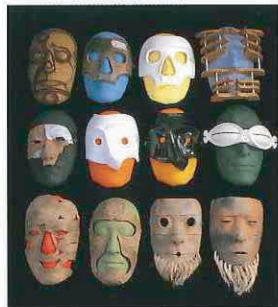
「縄文の太陽」と猪風来

猪風来 いふうらい

陶芸家

- 1947 広島県福山市生まれ。
- 1968 武蔵野美術大学短期大学部油絵科卒業。
- 1978 山野にて縄文土器片を採集し感動、復元復活を志す。千葉県加賀利貝家博物館・縄文土器作りの同好会にて活動、縄文野焼き技法を確立。
- 1986 北海道石狩の大自然の中へ移住。窪穴住居をアトリエとして縄文の魂と形を体得すべく20年間修行を積む。赤漆塗縄文土器・土偶の再現、縄文野焼き技法と縄文造形を極める。
- 1999 演出家・宮本亜門邸(沖縄)大広間に縄文野焼き作品「縄文の渦」大レリーフを設置。
- 2001 テレビドキュメント番組「ペルー・エクアドル探訪の旅」に出演しエクアドルのハトゥンパンパ村を訪れ、南米の野焼きを体験。
- 2002 スペインにて作陶。ペイタイ村にて「熱烈にBeltall美術展」を開催、名誉ペイタイ賞を授与。
- 2005 中越地震・震災復興プロジェクト「大地の女神」を制作。新潟県立歴史博物館玄関前広場に設置。
- 同年 北海道から岡山県新見市法吉に移住し、猪風来美術館を開館。
- 2007 地元伝わる古陶・法曾焼を復興。
- 同年 フランスのサンシール・シュール・ロワール市にて縄文野焼きを上演。
- 2010 イギリスのセインズベリー日本美術研究所の招待により、パリッ市にて「Unearthed(作られしもの)展」特別ワークショップで講演。
- 2011 NHKBSプレミアム「日本美術の一万年〜魂の縄文アート!土偶」に出演し遼古器土偶を再現制作。
- 2012 新境地を拓く縄文陶「大霊峰」シリーズを発表。

著作に縄文暮らし体験記「縄文回帰」、縄文造形芸術論「土夢華」など。



連作「縄文仮面」

堀江武史 ほりえ たけし

修復家

- 1967 東京生まれ。府中工務代表、修復家。
- 縄文遺物の魅力を伝える方法として、現代美術との併置展示を企画、考案している。
- 日本産漆、胡粉、粘土から合成樹脂に至るまで、現在手に入る様々な材料を使った作品も制作中。
- 目指すのは縄文時代的なものではなく「縄文的なもの」。最近では制作時の高揚感をプリミティブな感情として自覚しはじめ、縄文人の気持ちに少し近づいたような気になっている。

- 〈企画〉
- 2009 「ジョモニスム」展(新潟・津南町なじょもん)
- 2010 「ジョモニスム」展(岩手・滝沢村蔵文化財センター)
- 2011 「ジョモニスムII」展(岩手・御所野縄文博物館)
- 〈美術に関する論考〉
- 2008 「縄文土器の修復・複製・復元品の活用」総覧 縄文土器「アム・プロモーション」
- 2011 「縄文と現代をつなぐ美術表現の試み 今昔の関係性をカタチに」千葉県船橋市飛ノ台史跡公園博物館紀要 第8号
- 2012 「縄文の魅力の世界につたえたい 〜私の考える縄文遺物と現代美術の協同〜」
- 「penser l'art aujourd'hui inspirations au japon」ETUDES JAPONAISES (France) (刊行予定)



らくだの国「花嵐岩」



じょうもん織り(からむし麻)



過去への門(FRP制)



隆耀(りゅうりょう)

萩野弘一 おぎの こういち

石彫家

- 1954 新潟県阿賀野市生まれ
- 1996 第8回神戸貝家彫刻大賞展 大賞受賞(神戸市長賞)
- 2000 第1回桜の森彫刻コンクール 大賞受賞(秋田県)
- 2004 Sculpture by the sea出品(オーストラリア) (以後'05'06'09'10'11'12)
- 2012 The Schoodic International Sculpture Symposium(アメリカ)

金川真美子 かながわ まみこ

インスタレーション

- 1988 新潟県長岡市生まれ
- 2007 長岡造形大学 入学
- 2011 「新潟の美術家たち展」出展(銀座)
- 2012 長岡造形大学院 在学
- テキスタイルデザインを研究中

5歳より竹下玲子に習字を習い、県内・外に公演活動中

佐藤和行 さとう かずゆき

創作作家

- 1950 新潟県長岡市生まれ
- 1969 二紀展初入選(油彩)東京・上野
- 2000 新潟県立歴史博物館内「縄文のフロッグ」制作(カラーモルタル)
- 2001 新潟県立歴史博物館前(野外)「過去への門」制作(FRP)
- 2001 アトリエ五狼 開設(長岡市柿町)
- 2009 横町ギャラリー飛騨舎(主宰) 開設(長岡市大槌折渡町)
- 同 (長岡市都市景観賞受賞)

松本泰典 まつもと やすのり

造形作家

- 1971 新潟県長岡市生まれ
- 1998 多摩美術大学大学院 絵画科油画画修了
- 2002 長岡市内にギャラリー・沙蔵開設
- 「戦争と平和展」を主催 於:長岡美術センター
- 無所属、個展・グループ展など

長谷部 昇 はせべ のぼる

画家

- 1939 山形県生まれ
- 2000 トミオカホワイト美術館館長
- 自由美術協会会員、個展、グループ展など多数

ギャラリートーク 8月4日(土) 13:00~

参加費: 無料(観覧会入場券が必要です)
参加ご希望の方は展示室入り口にお集まりください

ワークショップ

- 6月28日(木) 10:30~16:00 (対象者/地元小学生など)
萩野 弘一「河原石を使った作品作り」
- 7月14日(土) 9:00~16:00 (対象者/地元小・中・高校生など)
長谷部 昇・渡邊 文洋(アシスタント)「粘土の面造り」
- 8月 3日(金) 9:00~16:00 (対象者/地元小学生など)
猪 風 来「土器野焼き」
- 8月 4日(土) 17:00~(予定)
桜月流「縄文 TSURUGI Arene『火焰の宴 ~Blaze Mask~』」
対象/小学生から高校生、一般

〈交通のご案内〉

- ◎上越新幹線「越後湯沢駅」下車
→越後交通バス 森宮野原行き(約50分)「十二ノ木」下車
→徒歩(約15分)
または「越後湯沢駅」より
タクシー利用(約40分)
- ◎練馬I.C.→塩沢・石打I.C.
(関越自動車道約120分)
→R353経由(約45分)
- ◎新潟西I.C.→越後川口I.C.
(関越自動車道約60分)
→R117経由(約45分)

